

地図情報を駆使した運行管理システムで 顧客サービスや業務効率を改善



事業 概要

平成29年度
補正

タブレットを活用した革新的な運行管理による 経営効率の向上

タブレットを活用した配車・顧客・地図・運搬履歴等の情報管理システムと、請求書の作成や案件データの蓄積等を行える後方支援システムを構築することで、「顧客サービスの向上」と「運行管理の強化」を実現することが出来た。

ドライバーの負担を軽減し安全で効率のよい運搬を

当社の主な事業は、建設現場やリース業者からの重機運搬です。宮城県内を中心に、1日に200件程度の運送依頼があり、1人のドライバーが1日で5～6件の仕事をこなしています。これまで電話で依頼を受け、現場の地図をFAXでいただいて配車していたのですが、3日前から当日迄の仕事依頼が約8割を占めるため、ドライバーに地図を渡すのが間に合わず、運送依頼指定場所を電話で指示することもありました。キャンセルや運送時間変更も多く、配車の変更が日常的に発生するので、グーグルマップを活用し、ドライバーが効率よく移動できるシステムを開発・導入しました。



タブレットでの入力情報を減らし、使いやすさを重視

グーグルマップと配車予定を連動 広い工事現場でもピンポイントで運搬

電話とFAXによる運送依頼を現場の詳細情報と合わせてシステムに入力。それを基に配車予定表を作成し、それぞれのドライバーが持つタブレットに運行指示を送信します。私たちの現場はまだ正確な住所がないところも多く、グーグルマップで具体的に「ここ」と指示出来るため、間違いのない運搬が出来るようになりました。

事務管理の面では、積み下ろしの時間やドライバーの位置など現場の状況が把握出来るようになりました。また、これまでは手書きだった日報もタブレット入力にすることで短時間に行えるようになり、入力された情報を基にワンクリックで請求書の作成まで可能となりました。



業務の特性を活かしたシステムを共同開発



1日約200件の運送依頼を管理



それぞれのドライバーに運行指示を送信



正確な位置情報で
ドライバーのストレスやミスを軽減



請求書もワンクリックで発行

ユーザビリティの高いシステムで 仕事の効率も利益もアップ

地図情報の便利さに加え、タブレットに入力する情報を最小限にしました。使いやすさを第一に考えたことで、年配のドライバーも使いこなすことが出来ています。受領書のサインもタブレットの画面にいただくことにより、会社に紙の伝票を取りに戻る必要もなく、次の現場への移動がしやすくなりました。アナログが多い重機運搬業界でのイメージアップになっています。システム導入で効率化が図られ、事故やミスが減ったことも利益に繋がりました。

システム会社とさらに改良を重ね完璧な状態まで仕上げて、私たちのような配車システムを必要としている会社への展開も視野に入れています。

会社の強みは何ですか？



会社のミッションは、「困った時の最後の切札でありたい」。たまに「大至急」とか「どうしても運ばなければならない」という仕事が入りますが、24時間いつでも対応するので、困ったときはとりあえず電話をしていただければと思います。

震災の翌年に会社を継ぎ復興させた原動力は？



震災で、事務所やトラックの半分を失いましたが、直後から福島第一原発や沿岸部の自衛隊に重機を届ける仕事が入りました。命を助けるためということで、無くてはならない仕事であること、そして人に感謝されることを通して、従業員も含めてやりがいを感じました。この経験は一生忘れません。これらを糧に日々精進し、より良い企業を目指していきます。



有限会社黒潮重機興業
代表取締役社長 菅原 隆太 氏